

QRコード型 印鑑の作成について

QRコード型印鑑は、自分の遺伝子情報を格納し、家族の文面書や遺言文書のようなものに押印し、いつまでも残すことができます。

QRコード型印鑑はすべてのお客様の歴史的、遺伝的痕跡を残すために、また、家族の意思や遺言書などの文書に押印するために家族または祖父母へのプレゼントになることを意図していますが、他にも多くの事故や災害時の正の識別に、このQRコード型印鑑による情報で被災者を容易に識別でき、すべての情報源として使用されます。この印鑑には、こういったケースの識別を簡単に、また、100%決定を行うのに十分な情報が含まれています。また、祖父や父親が生存していない場合でも、この印鑑を残しておけば、祖父や父親のDNAデータが格納されているため、お客様、お客様の子供のその子供であってもDNA鑑定が可能になります。遺産相続の問題などで真の親子関係の証明が必要な場合に、当事者が亡くなられた場合でも何十年経とうが、このQRコード型印鑑で親子鑑定も可能になります。残された家族の生活を通して、いざと言うときのために判を押していれば、DNAデータが必要な場合に有効になりますので、子供や孫への良い贈り物にもなります。人間のDNA遺伝子情報というのは子供から大人へ成長しても決して変わることはありません。また、日本では亡くなられた人の多くが火葬されるため、遺骨でのDNA鑑定が不可能になり、実際に親子鑑定をしたくてもできないということが現状であります。この印鑑があれば遺骨でのDNA鑑定が不可能であっても印鑑にその人のDNA情報源がすべて格納されているため、いつでもDNA鑑定が可能です。

QRコード型印鑑には、お客様が印鑑を暗号化するか、または暗号化しないかを選択します。暗号化をされない場合、バーコードリーダー機能がついてる携帯電話などで、読み取りしめすと誰でも、その人の情報を観覧することができます。また暗号化をされている場合、バーコードリーダーで読み取りをしても、4桁の暗証番号を入力しないとその人の情報は一切見ることができないという仕組みになっています。また、暗号化された情報を観覧するには、スマートフォンまたはパソコン上での観覧となります。

基本的に印鑑に格納される個人情報、お名前・ご住所・生年月日・個人のDNAデータです。押印した人の明確な情報を格納しているため、例え何十年経っても、誰が押印したか明確に証明ができます。

QRコード型印鑑で利用可能なDNA情報には2つの選択肢があります。

15ゲノムDNAマーカーによって、何世代にもわたって当事者の直接的な繋がりを見つけるために遺伝子検査を行うようになるでしょう。その15STRマーカーは、FGA, TPOX, D8S1179, vWa, PentaE, D18S51, D21S11, Th01, D3S1358, PentaD, CSF1PO, D16S539, D7S820, D13S317, D5S818.です。これにより、直接的系統の肯定的な識別を行うための十分な遺伝情報を与えたり、男女の子孫のための遺伝情報となります。

また、Y染色体の情報では広い世代にわたって、直接的に男性系統を示すために使用することができます。検査を受ける被験者は男性でなければいけません。そしてこの情報は直接的な男性系統を示すためのみ有効です。そしてこれは過去からの男性から男性への遺伝子情報でなければならないことを意味します。この情報の利点は、他の情報なしで広くの世代にわたって使用できるということです。

現在までさかのぼって生きている人々が、はるかに遠い昔のジンギスカンとの直接的男性の血統を示すようなもののために、この検査が行われます。Y染色体の情報の不利な点は、この検査で試験された男性に兄弟がいるならば、その兄弟にも同じY染色体情報があつて、また、男性の子供の子供たちにも情報が受け継がれることになるでしょう。

すべてのQRコード型印鑑には検査をされたお客様のすべての遺伝情報の文面も付属します。すべての検査は繰り返し2回行われ、100%の精度を保証致します。

また、サンプル採取の際には立会人をつけてサンプル採取を行うことをお勧めします。そうしますと後々、裁判沙汰や正式にDNA鑑定を行うことになったとしても、立会人を通してQRコード型印鑑を作成していれば、正式なDNA鑑定としてのQRコード型印鑑の使用が可能になります。またすべての印鑑は、将来的にも必要に応じて印鑑を再製するために、使用された元のファイルも電子メールに含まれています。

お問い合わせはいつでも承ります。 フリーダイヤル 0120-705-825 まで。